

登山学校

第7回『総合学習』 第18期登山学校受講生 小林 和文 記

<12/7総合学習>

初日は鍬柄岳での学習という事で、岩場の登山や急斜面の懸垂下降の練習など「山での救急法」や「岩登り」講座を復習する内容でした。2班に分かれ、先に鍬柄岳の登山をするグループと懸垂下降・トラバースの練習をするグループに分かれ学習する形となり、1班は先に懸垂下降を行うグループとなりました。講師の方々がロープでコースを作り、セルフビレイを行いながら落ち葉と急勾配で足場の悪い斜面をトラバースし、ムンターヒッチで懸垂下降しました。一度講習で行っていた事もあり斜面を降りる事にそれほど恐怖心もなく、しっかりと足場を確認しながら下降する事が出来ました。しかし、ムンターヒッチに時間を取られてしまう事が多く、急斜面で冷静になれる事と学習した事をしっかりと復習しなければという事を改めて思い知らされました。午後からは、前半グループと交換で鍬柄岳の登山です。ほとんど岩場の登山でしたが鎖がついているのでセルフビレイを行いながら、ゆとりのある登山となりました。所々で広がる下界の風景や上州の山並みは、とても雄大で晴天の天気とあいまって本当に山の魅力を満喫できました。また、カラビナを使用しながら登山する事は個人的に初めての経験だったのでカラビナが鎖と岩で傷つく事に少し満足感も感じました。15時30分頃バスに乗車し、宿舎である「裏妙義」に向かいました。予定では机上講習がありましたが日中の講習が長引いた影響で中止となりましたが交流会の際にテーピングの講習や講師の方々に気兼ねなく質問できた事がとても良かったです。

<12/8総合学習>・山行記録

内山大橋→荒船不動尊→星尾峠→経塚山→荒船山山頂・昼食→鱸岩→内山峠→下山

2日目は経塚山・荒船山の山行と初日とは違い歩く距離の少し長い工程となりました。荒船不動尊を目指す途中道では、経塚山の霧氷も確認出来、今から向かう山にワクワクした気持ちとなりました。地図を確認しながらコンパスをふり、上空の雲を観察したりと今までの講習を振り返りながら登山を行う事で山をもっと知ろうという気持ちになりました。山道は、霜柱や氷の張っている所もありましたが思いのほか歩き易く、経塚山でも軽アイゼンを使用する事なく下山出来ました。経塚山での霧氷の世界はとても美しく、空の青と霧氷の白のコントラストが素晴らしい景色でした。荒船山の山頂で昼食を取り、そこから鱸岩に行きました。鱸岩の迫力はとても凄く、断崖に立つと吸い込まれそうな気すら感じました。鱸岩からの下山ルートは、多少の岩場はありましたが終始なだらかな道が続き、少し登ってまた降りるを繰り返している内に少しずつ下山するという様なルートとなっていました。「総合学習」の2日間とも晴天に恵まれ、とても素晴らしい山行となりました。今までの復習も含めての講座となりましたが個人的には、山の事をもっと知りたいと思う事が出来た講座でした。18期の受講生で泊りの学習は、夏の日和田山以来でしたがとても楽しいものとなりました。次回の冬山講座が18期最終となる事が残念ですが、次回もとても楽しみです。以上

